

各地区情勢報告（2019年7月29日）

地区報告者	報告概要
東京地区（山岸常任理事）	<p>棒鋼部会（鉄筋・店売り）鉄筋の店売り市況は変化なし。鉄筋用丸鋼の在庫はほとんどメーカー在庫であり過剰ぎみとなっている。鉄筋の店売り販売、切断加工は当用買い中心で順調に仕事が入っている。今後、10月消費税増税の影響も出てくるだろう。（鉄筋・直送）スクラップ市況に下げ止まり感がでてきた。直送についても市況は横ばい。関東鉄源の7月スクラップ輸出落札価格は平均2万8千60円。907円安。調整局面に入っている。副資材、電極が値上がりしているため、現在メーカーも踏ん張りどころである。メーカーの明細投入量は6月15.3万トン。ピーク時の半分強になってしまった。不需要期4～6月を過ぎたが、流通としてはいまだ厳しい状態が続いている。（平鋼）6月の販売数量は前月比、前年同月比とも微減であった。6月は前月より稼働日数が多いにも関わらず減少となってしまった。建設関係の動きは例年より遅い動きである。価格は弱含み傾向。荷動きが少なく、メーカーへの申し込みを調整しているが、在庫より入庫の方が多く在庫は一向に減少しない。在庫調整には時間を要する。東鉄の発表は据え置きでほっとしている。4～6月のメーカー生産量は10%位落ちている。店売り販売も減少し、ひも付きも低調である。下期は需要があるのではと予測している。市中在庫が増えないようにメーカーには在庫調整をお願いしたい。（構造用丸鋼）店売り、ひも付きとも盛り上がりを感じられない。高炉メーカーは値上げしたいが、需要環境の問題もあり現状のまま販売価格は横ばいで推移している。在庫は増加傾向。電炉メーカーは7月、8月夏季減産のためスクラップ相場は軟調に推移していくのではないかと見られる。</p> <p>形鋼部会（形鋼概況）6月の総販売量は前月比1.7%減少。内訳をみると一般形鋼は9.4%減少、H形鋼は2.5%増加、コラムは21%増加、軽量形鋼は横ばい。（一般形鋼）7月の荷動きは悪くなっている。需要面では当用買い中心の商いが続いている。先月の東鉄値下げで市況は弱含みの状況。建築関係はボルトの影響で中小物件に精彩を欠いている。一次加工については短納期が多く1～2週間は埋まっているが、指値が厳しい。供給面では高炉、電炉ともロールに余力がある。メーカーは鉄鉱石の値上げもあり、値上げをしたいところだが、現状、一般形鋼の価格は2千円位下押ししている。現状我慢の時期であり、適正マージンがとれるように市況改善に努めていきたい。（H形鋼）6月倉入入荷は前月比10%減。倉出販売は4%増。在庫は0.1%減で、在庫が減らなかった。稼働日増で倉出販売は増えたが、日割りでは横ばい。不需要期の4～6月は終わったが予想以上に悪かった。建築着工、小規模案件すべてにおいて減少となっている。前年同月比でも減少している。ボルトの入手難は継続しており、足元物件がとれていない。12月から来年度までは続くと思われる。第3四半期10～12月に需要が出てくると予測していたが、工期遅れが生じ</p>

ているため第4四半期にずれこむという話である。電炉、高炉メーカーとも余裕がある。高炉メーカーは鉄鉱石の値上りも考慮に入れている。東鉄が今月価格を据え置きにしたので少し安心している。ずっと踏ん張っているが、採算重視で踏ん張っていくしかない。(コラム) 足元の物件が少なめで在庫の山が高くなっている。加工も1週間程度で混んでいる状況ではない。母材を供給する高炉メーカーが値上げのため時期をみてコラムメーカーから値上げがくると思う。価格に関しては慎重な対応をしていく。

(軽量C形鋼) 定尺販売は大きな落ち込みもなく順調に推移している。ユーザーの在庫意欲が感じられず、当用買い中心で必要最低限の発注のみとなっている。加工は順調に注文がきている。細かい物が多く、納期が空くことはない状況である。高炉メーカーが母材値上げをするため、軽量関係のメーカーも値上げすると予測される。価格を大事に販売していきたい。薄板部会(薄板概況) 5月末の薄板三品在庫は462万6400トン。前月比+9万トン。先月の453万トンを更に上回る異常値。当社の6月販売量は前月比99%でした。6月の稼働日は5月よりも1日多いが減少した。7月は悪くないが良くもない状況。ゲーム機、スチールサッシ関係の需要が出ている。建設も堅調、空調ダクト関係は堅調。今後も首都圏再開発物件、ショッピングモールと需要は続くだろう。メーカー在庫が余っているにもかかわらず、値上げの拳は上げたままである。価格の対応もユーザーには納得してもらえない。輸入材の割合も多くなってきている。上期中は無理だが、下期には価格を上げていかなければならないのではないのか。今後、建材中心で良くもなく悪くもない状況で推移してだろう。

(表面処理鋼板・店売り) 5月連休明けから悪く、6月も悪かった。7月は多少良くなったが昨年よりは良くない。メーカーは値上げに持っていきたい様相だが、今の在庫を適正在庫にもっていくには時間がかかるだろう。流通在庫も多い。1円下げても売れるものではない。申し込みを絞っているが、通常3ヶ月の入荷がひと月で入荷されてくる。メーカー在庫は減少しても、流通在庫が増えるだけである。保管料を払ってほしいと通告ベースの話もくる。流通としてはお付き合いのある高炉メーカーと商売するしかないため、お願いしても聞いてくれないがお願いし続けるしかない。

厚板部会(厚板概況) 6月の販売量は前月比微増、在庫量は前月比微減でした。前年同月比でみると販売量は13.1%減、在庫量は11.9%減で販売、在庫とも大幅減であった。市況は弱含み傾向である。産機、建機は堅調であったが、メーカーによっては減産するところもあり、斑模様となっている。セグメントは好調。建築は全体的に低調。定尺素材販売、店売り販売向けは低調である。メーカー動向は先月と変わらず高炉メーカーは値上げ要請で強気である。東鉄の値下げの影響が出ている。地方店は当用買い中心。価格転嫁は維持するのが精いっぱい。価格に対するネゴは強くなっている。海外市況の下落、入着している輸入材、10月消費税増税

など価格には注視していかなければならない。厚板の需要が出るのは秋以降。その頃には中小ファブも仕事が出てくるだろう。(中板コイル) レベラーの加工状態は4月、5月、6月と横ばい。7月は稼働日が一番多い。前月比106%、日当たり97%と予想している。ある企業では午後3時で仕事が終わってしまうところもある。ダンプ関係も2トン車の排ガス規制の関係で8月盆休み前までは順調だが、それ以降2割位落ちると予想している。建機は某メーカーでは2割減。去年は忙しかったので2割減でちょうどいい位の需要ではないか。在庫の過剰が先安感を生んでいる。コイルセンター単価は弱含んでおり採算が悪くなっている。(厚板定尺) 相変わらず低調な荷動きである。小ロットの引合いのみで売り越しが弱い。価格のネゴが強くなっている。千円、2千円下げても商売にならないケースがほとんどなので価格は下げていない。いまだ在庫調整が進んでいない。先々の物件見積りが来ているため、秋口に需要は多少増加するだろう。現状荷動きが停滞しているなか、値上げはできないので、辛抱していくしかない。(縞板) 先月と全く同じ環境で変化なし。定尺素材販売は低調。レーザー、穴あけなど下行程絡みで小ロット短納期の仕事が出ている。直需向けではショッピングモール、首都圏再開発物件、物流倉庫、プラント向けフロア材、システム建築、商業ビル、マンション向けの立体駐車場のパレット材など話は10月以降、出てくるのではないかと。4月以降、メーカーの契約残の消化が激しくなり在庫が増えている状況。

鋼管部会(鋼管概況) 価格面は安定している。物によっては弱含みな所もあるが、さほど大きな変化はない。需要についてトラックは堅調、自動車も堅調でスバルは元の生産に戻った。建設機械はメーカーによって良いところ悪いところさまざまである。鋼管杭の需要が落ちている。物件や価格の問題もあり、コンクリート杭に移行しているところもある。太陽光物件で架台が動いている。全体的な荷動きはいまひとつにもかかわらず、高炉メーカーから値上げの申し入れがあった。(高炉品) 6月は建設、設備向けの需要に一服感があった。店売り販売は月を追うごとに静かになり、前年同月比横ばいまたは5%の減少。価格は上がっているため売上金額においては横ばい、5%アップとなっている。出荷低調ながら各社、在庫調整しているのでなんとか需給均衡を保っている。高炉2社から値上げの話がきており、強気姿勢である。メッキ品の遅れが解消されないが、その他は通常通りである。7月初旬からメーカーの納期遅れもあり、中旬以降、白ガス管は品薄状態になっている。先行きプラント関連は期待できない。設備関連は工期遅れで一服感はあるものの需要自体は見込まれる。店売り販売は市中在庫の適正を維持しつつ粘り強く価格転嫁していくしかない。

(溶協品) 販売状況は各社様々で斑模様である。6月の店売りは好不調の波がなく全体的に低調。秋需に期待を寄せている。昨年よりは悪いが、一昨年よりは良いのではないかと。要因は現場の遅れである。鋼管杭はかつての勢いはなくなり、斑模様で、住宅杭は割高感からコンクリート杭に変更

	<p>されることもあり厳しい状況である。中小新規物件がかなり少ない。すべての分野で悪いというわけではなく、角パイプの大口加工、大型物件、太陽光関連など一部の分野でいいところもある。</p>
<p>大阪地区 (森下常任理事)</p>	<p>(棒鋼) 市況について丸鋼は前月比横ばい、異形棒鋼の直送が1千円下落、現物は横ばい。平鋼は横ばい。スクラップ市況がジリ安で推移するなか、東京製鉄は7月契約で異形棒鋼の販売価格を値下げした。ユーザーは様子見状態である。新規の引き合い、製薬も一層進んでいない。めぼしい物件も見当たらず、先行き不透明である。平鋼は小口当用買い中心。市況は多品種に引っ張られ弱含んでいる。構造用丸鋼は、メーカーの受注減で減少していることもあり、市中在庫の歯抜けは解消されている。産機や工作機械の需要に盛り上がりはなくなっている。</p> <p>(形鋼) H形鋼、等辺山形鋼、溝形鋼が前月比2千円下落。不等辺山形鋼、I形鋼は横ばい。軽量製品は横ばい。6月のH形鋼の販売は前月比増加した。7月はG20が開催された6月よりも稼働日が4日増えることから月全体で増加となる見通し。一般形鋼の販売は4月から減少が続いた。H形鋼も一般形鋼も在庫が多いなか荷動きに迫力がない。東鉄の7月契約値下げで客先からの指値が厳しくなった。今後、契約残が減少しているものの日当たりの荷動きに大きな変化が見られないが、在庫の適正化に時間を要する模様。</p> <p>(鋼管) 市況は配管用鋼管、構造用鋼管、角形鋼管、横ばい。店売りの販売量は前年同期比減少。そのため、流通各社は在庫増とならないように仕入量を抑えていく方針である。メーカー値上げ分の価格転嫁については、高炉品が未達で機会をうかがいながら進めていく模様。需要動向は建築は国内向けの出荷が比較的堅調なものの海外向けが減少傾向。工作機械も含め、頭打ち観は否めない。ディスプレイは中小案件中心ながら堅調。建築はハイテンションボルト不足の影響で工期遅れがある。秋需に期待。</p> <p>(薄板) 市況は表面処理、冷延とも前月比横ばい。国内の薄板三品在庫は5月末で463万トン。コイルセンターをはじめとした流通在庫は多い。需要動向について自動車は比較的生産好調。家電は冷蔵庫、洗濯機、エアコンのいずれも出荷量が増加しており好調である。特に高付加価値家電の販売が増えている。鋼製家具は苦戦。建材は住宅が低調。非住宅は店舗が堅調。工作機械は米中貿易摩擦の影響で低迷している。</p> <p>(厚板) 市況は熱延薄板、中板、厚板、縞板、いずれも横ばい。シャー、溶断とここへきて仕事量が減少しており、切板加工販売価格も下がっている。需要動向について産機は盛り上がり欠けるものの、建機、建材はまだましなレベルでそれほどの落ち込みではない。</p>
<p>愛知地区 (早川常任理事)</p>	<p>板類は過剰な状態である。鉄骨中小案件の需要は堅調だが、相変わらず工期遅れで荷動き回復に時間を要する。全体的にいい品種というものはない。6月、7月と大幅な回復はない。</p> <p>6月の条鋼品種の販売は前月比では増えたが前年同月比では落ちている。</p>

	<p>中でもH形鋼、コラムは悪い。小型案件が少なく大幅な回復に至っていない。一般形鋼は先々不透明である。工作機械はあるものの新規の受注が少なくなっている。まだまだ様相が悪い状況である。ファブも発注、荷動き回復に至っていない。(鋼板) 6月の販売は微減している。値下がり感は解消されていない。工作機械は不調。建機は昇降機、フォークリフトは好調。それ以外は不調。自動車生産は好調である。(切板) 設備関係がよくない。配電盤もよくない。(厚板) 土木、トラック関係など仕事が多いというほどでもない。産業機械は仕事にばらつきがある。厚板シヤ業者でも産業機械関係の仕事が多い。(鋼管) 自動車中心に設備が止まっており先行き不透明。落ち込みは少ない。建築は中小案件が少ない。</p>
東北地区(鎌田常任理事)	<p>需要動向は7月アンケート結果によると厳しい環境である。今後の3ヶ月需要動向もほぼ横ばい予想。丸棒、形鋼の在庫が過剰ぎみの状態でそのほかは需給均衡。2018年東北地区における普通鋼需要は204万トンを割ったが、2019年度は今の状況からすると200万トンを割る。自動車関連では東北はトヨタ中心。今年度はモデルチェンジもあり、昨年度比より減少傾向。丸棒は東北地区で昨年45万トンの需要はあったが4～6月の3ヶ月をみると昨年比11%減。4～6月の落ち込みが大きかった。今後、期待はしているが、会員の中では先行き不安感が出ている。</p>
新潟地区(澁井常任理事)	<p>需要は建築中心の仕事で、土木が少しずつ出てくるような気配である。仕事がないというわけではない。価格は踏ん張りどころである。関東からの安い流入玉が入ってきている。全体的に不安感が出ている。</p>